

『愛知医科大学学報』



一般に、学術研究あるいは大学運営に関する報告や通知などの記録的な情報を掲載した定期的な刊行物のことを「学報」といい、ほとんど大学がこれを発行しています。また、いわゆるUSR（大学の社会的責任）やアカウンタビリティ（説明責任）への意識が高まっている近年、学報には記録的な情報だけでなくトピック的な情報も掲載されるようになり、広報紙誌的な性格を強めています。そうした中、記録的情報を扱う学報とニュース性のあるトピック情報を扱う広報紙誌とを別々に発行する大学も増えてきました。

本学の学報である『愛知医科大学学報』は、1980年12月に第1号（B5判、左上写真。題字は多湖實夫第3代理事長）が発刊されました。ただし本学では、この『愛知医科大学学報』が最初の学報ではなく、開学初期から『病院通報』（～No.9）、『愛知医科大学付属病院広報』（～第15号）、『病院広報』（第1号）、『愛知医科大学病院広報』（～第7号）、『調整会議報』（～第80号）、『法人通達』（～第8号）などの広報や学報が断続的に発行されていました。

こうした経緯を踏まえて当時の田内久第4代学長は、「特色ある医科大学として、今後の一層の発展の道を歩む本学の刻一刻の進歩の様相を学の内外に周知させることは、いろいろな意味で重要なことである。…しかし、その実行、継続は必ずしも容易ではない。今回新しく誕生した本学報を全学一致して育てあげ、各方面からの期待にそうよう努力したい」との発刊の辞を寄せています。

現在、学報は第122号（2011年4月、右写真。題字は三宅養三第8代理事長）まで発行されており、この号から判型がA4判化されました。

